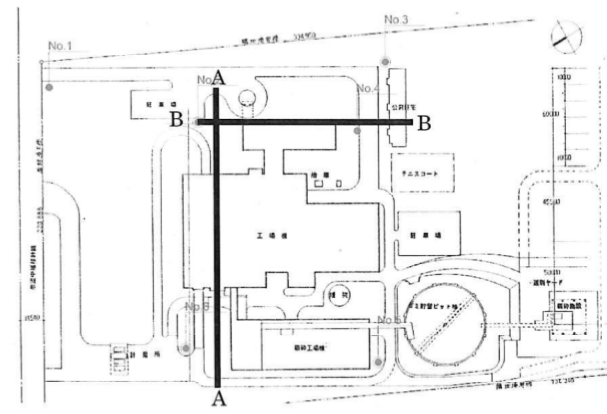
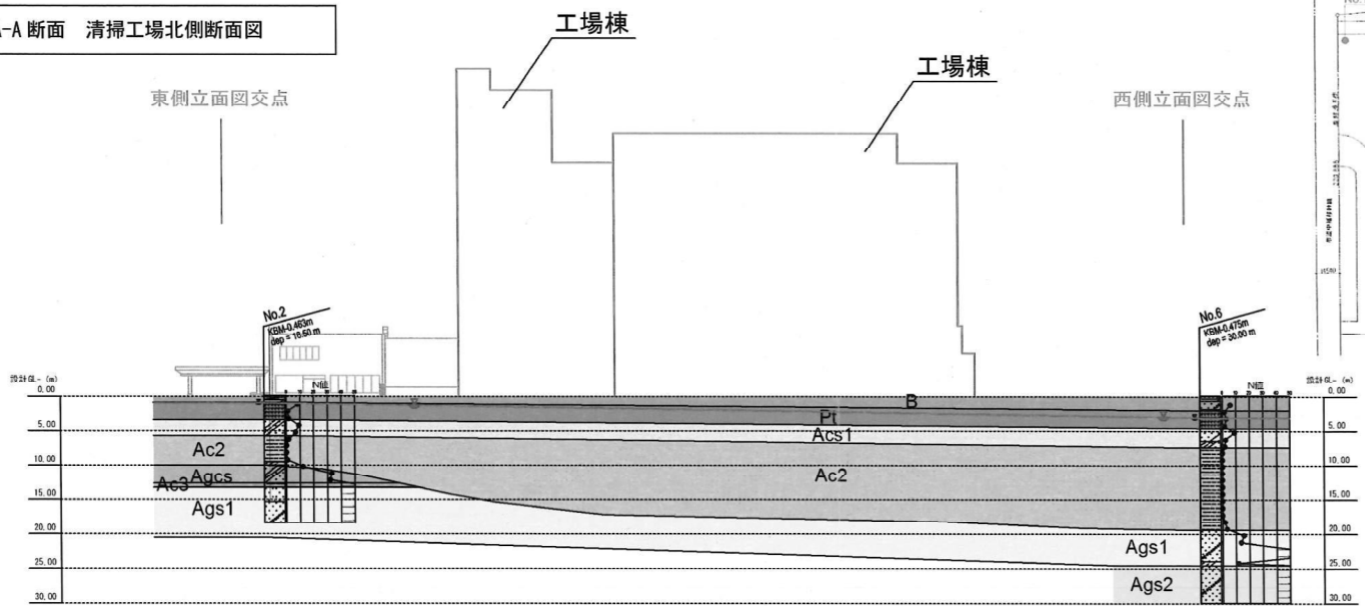


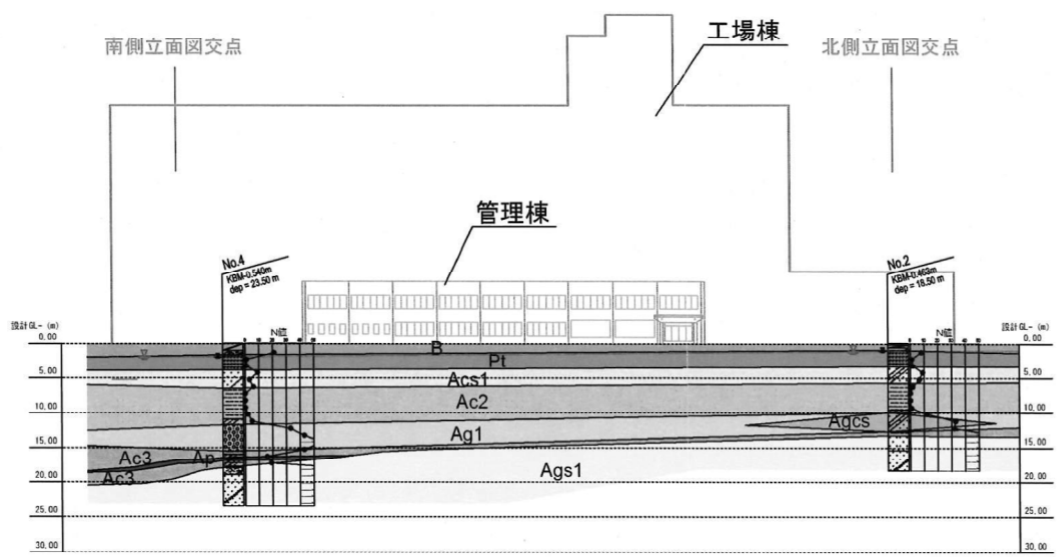
図 1.3.1 調査位置図 (1/1000)

A-A断面 清掃工場北側断面図



北側立面図

B-B断面 清掃工場東側断面図

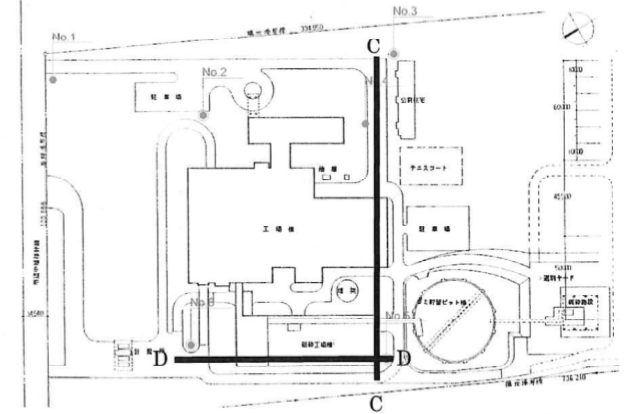
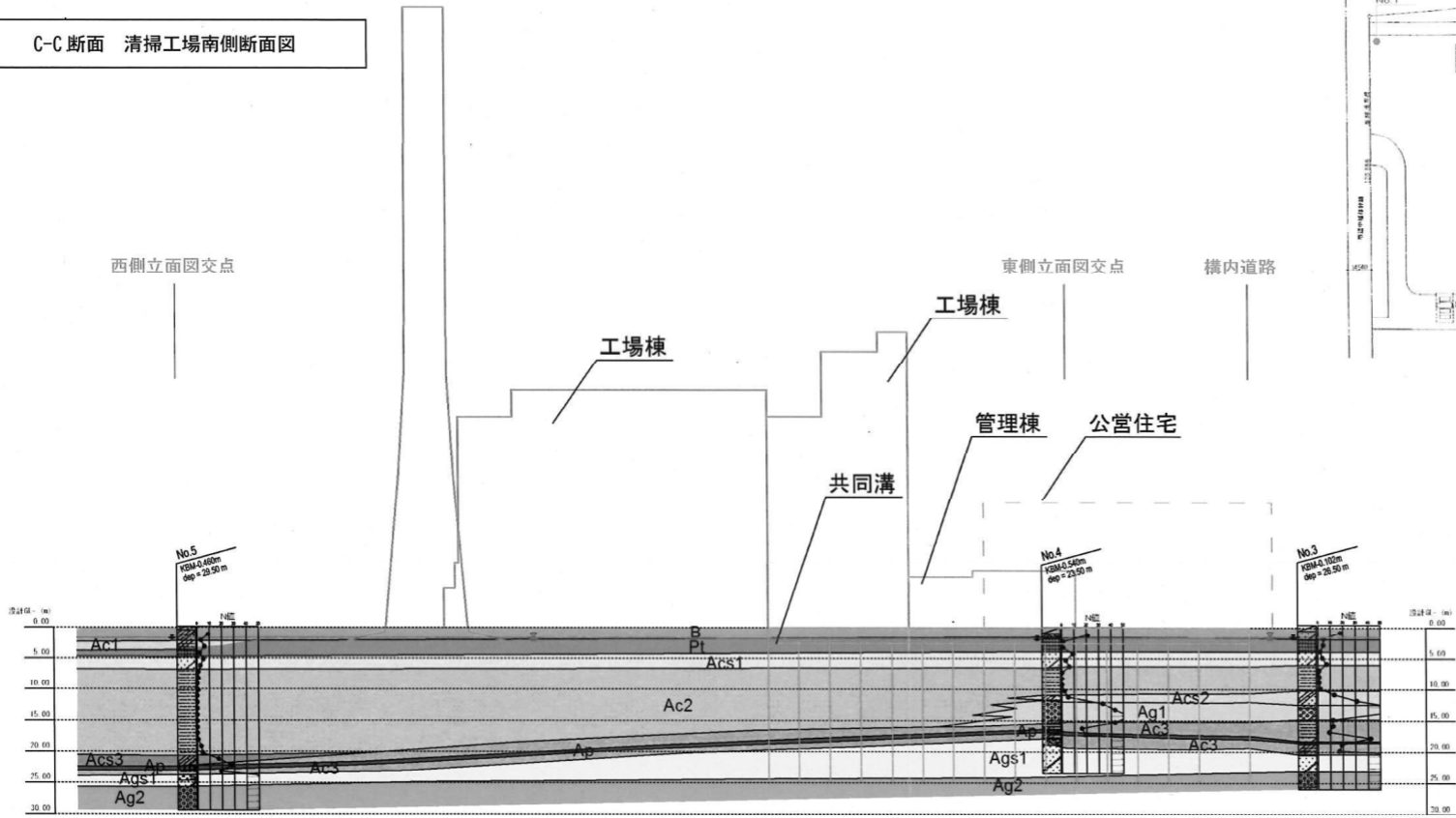


東側立面図

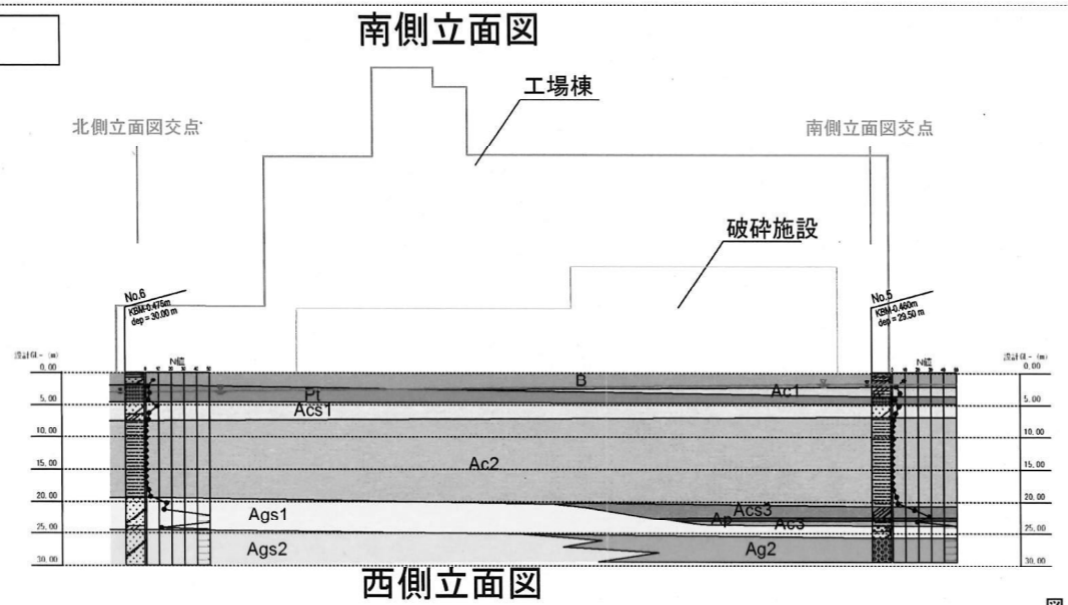
地質年代	地層記号	地質
新生代 第四紀 完新世	B	盛土
	Ac1	砂質粘土
	Pt	泥炭
	Ac1	細粒分質砂
	Ac2	シルト・粘土
	Ac2	細粒分質砂
	Agcs	細粒分質礫質砂
	Ag1	砂礫・細粒分混じり礫質砂
	Ac3	粘土
	Ac3	礫混じり細粒分質砂
	Ap	有機質土
	Ags1	細粒分質砂・礫混じり砂
	Ags2	礫混じり砂
Ae2	砂礫	

図 5.1.1 地層断面図 (北側立面図、東側立面図投影)

C-C断面 清掃工場南側断面図



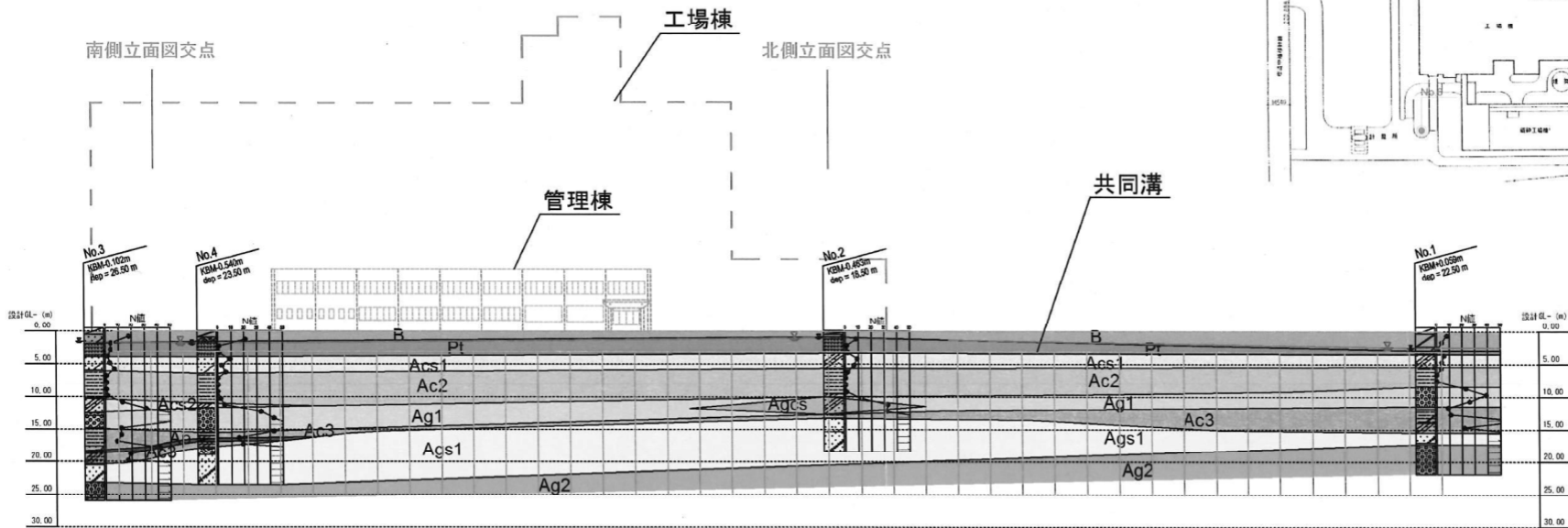
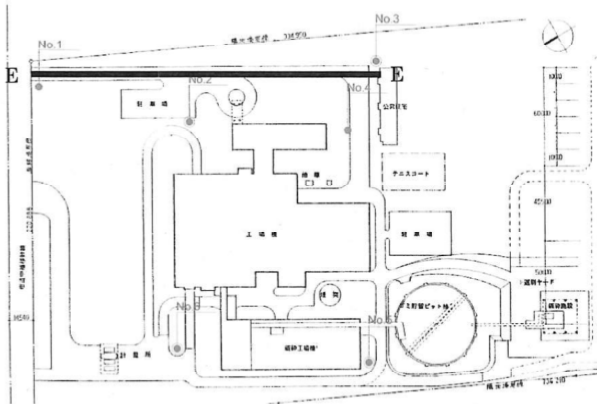
D-D断面 清掃工場西側断面図



地質年代	地層記号	地質		
新 生 代	第 四 紀	完 新 世	B	盛土
			Ac1	砂質粘土
			Pt	泥炭
			Acs1	細粒分質砂
			Ac2	シルト・粘土
			Acs2	細粒分質砂
			Agcs	細粒分質礫質砂
			Ag1	砂礫・細粒分混じり礫質砂
			Ac3	粘土
			Acs3	礫混じり細粒分質砂
			Ap	有機質土
			Ags1	細粒分質砂・礫混じり砂
			Ags2	礫混じり砂
Ag2	砂礫			

図 5.1.2 地層断面図 (南側立面図、西側立面図投影)

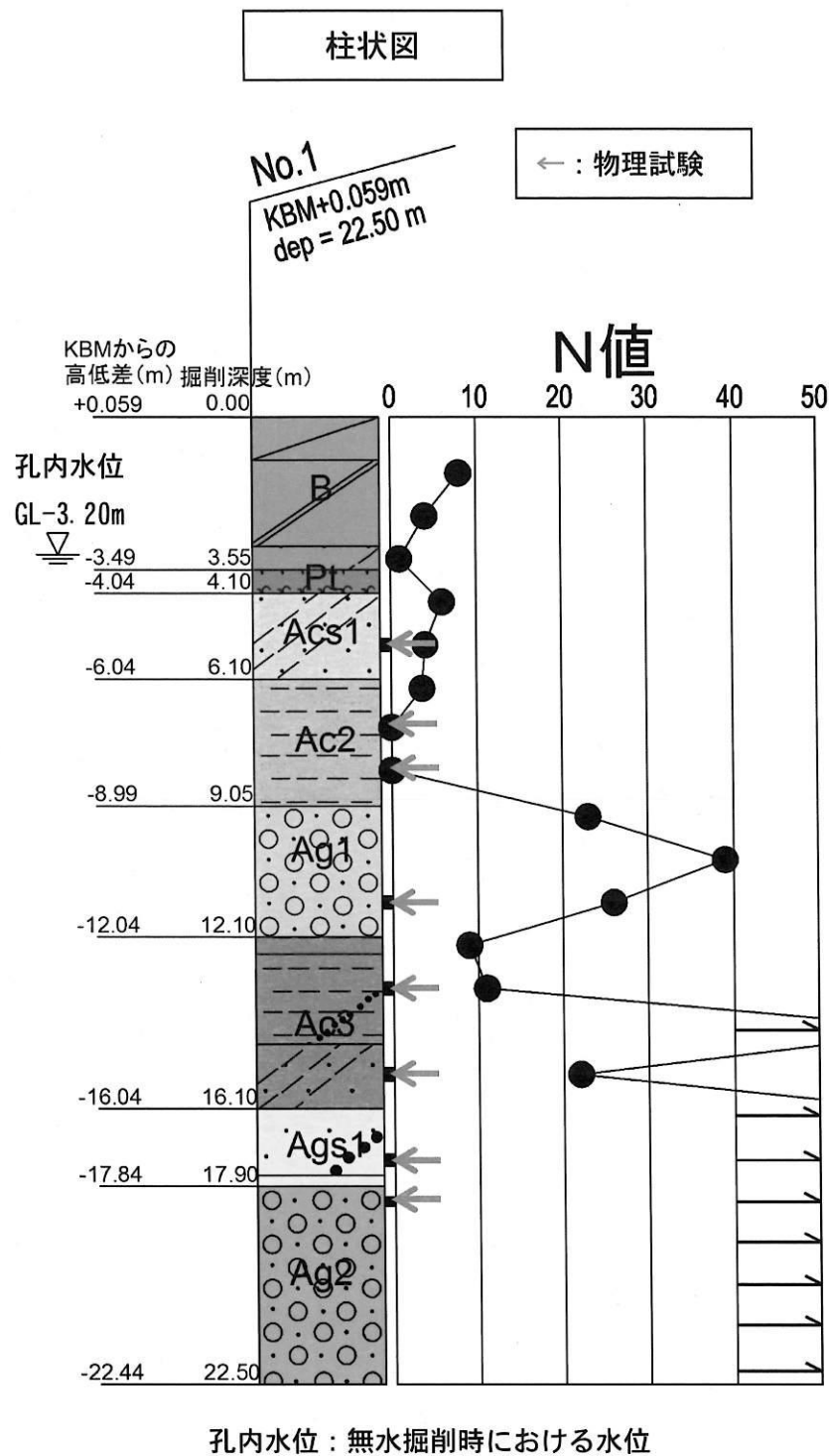
E-E断面 東側構内道路断面図



東側構内道路

地質年代	地層記号	地質
新生代 第四紀 完新世	B	盛土
	Ac1	砂質粘土
	Pt	泥炭
	Acs1	細粒分質砂
	Ac2	シルト・粘土
	Acs2	細粒分質砂
	Agcs	細粒分質礫質砂
	Ag1	砂礫・細粒分混じり礫質砂
	Ac3	粘土
	Acs3	礫混じり細粒分質砂
	Ap	有機質土
	Ags1	細粒分質砂・礫混じり砂
	Ags2	礫混じり砂
Ag2	砂礫	

図 5.1.3 地層断面図 (東側構内道路投影)



**地層概要**

地層区分	深度 (GL-m)	土質区分	記事
B	0.00 ~ 1.00	表土	全体的に砂礫状となり砂分は固結状を呈している。粒径が20mm程度の垂円礫を含む。少量の植物根も含む。
	1.00 ~ 3.00	盛土	シルト質砂を主体とする。砂分は粒径の均一な細砂。粘性は弱い。含水量は少ない。GL-3.80~3.95mまで暗灰のシルトを狭在する。
	3.00 ~ 3.55	シルト混じり砂	粒径の均一な細砂を主体とする。粘性は弱い。含水量は中位。
Pt	3.55 ~ 4.40	泥炭	全体的に軟弱。含水量は中位。腐植物は少ない。全体的に少量の砂分を含む。
Acs1	4.40 ~ 6.10	シルト質砂	粒径の均一なを主体とし、全体的にシルト分含む。粘性は中位。含水量は中位。GL-5.20m以深よりシルト分多くなる。
Ac2	6.10 ~ 9.05	粘土	粒径の均一な粘土。粘性は強い。含水量は多い。GL-9.00m付近少量の砂分含む。
Ag1	9.05 ~ 12.10	砂礫	砂は粒径の不均一な細~中砂を主体とする。全体的に20~80mm程度の垂円礫、角礫を含む。GL-9.05~9.80m付近少量のシルト分を含む。含水量は多い。
Ac3	12.10 ~ 12.50	粘土	非常に粘性の強い均一な粘土。全体的に酸化している。
	12.50 ~ 14.60	砂混じり粘土	均一な粘土を主体とし、部分的に少量の砂分を含む。粘性は強い。含水量は中位。GL-14.00m付近、黒灰の炭化物を含む。GL-14.00-14.40m付近、非常に固結している。
	14.60 ~ 16.10	シルト質砂	砂は細砂を主体とし、全体的にシルトを含む。含水量は中位。部分的に酸化部が見られる。
Ags1	16.10 ~ 17.65	礫まじり砂	粒径の不均一な細~中砂を主体とする。一部固結状を呈している。10~20mm程度の垂円礫を少量含む。粘性は中位。含水量は多い。
	17.65 ~ 17.90	粘土	粒径の均一な粘土。粘性は強い。含水量は多い。少量の砂分を含む。
Ag2	17.90 ~ 22.50	砂礫	全体的に30~50mm程度の垂円礫が混在する。含水量は多い。GL-18.80mまで粒径の不均一な細~中砂を主体とする。GL-18.80-19.00m粗砂を主体。GL-19.00-19.50m細~中砂主体。GL-19.50m以深中~粗砂を主体。

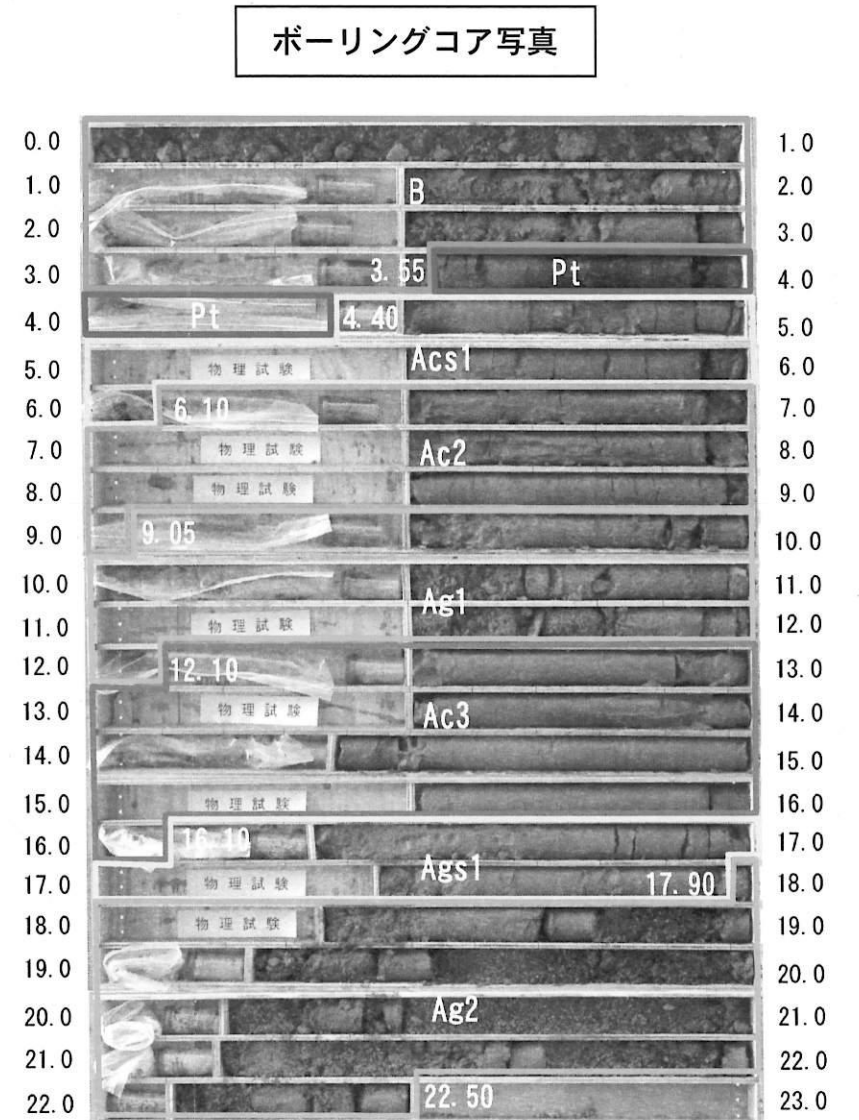
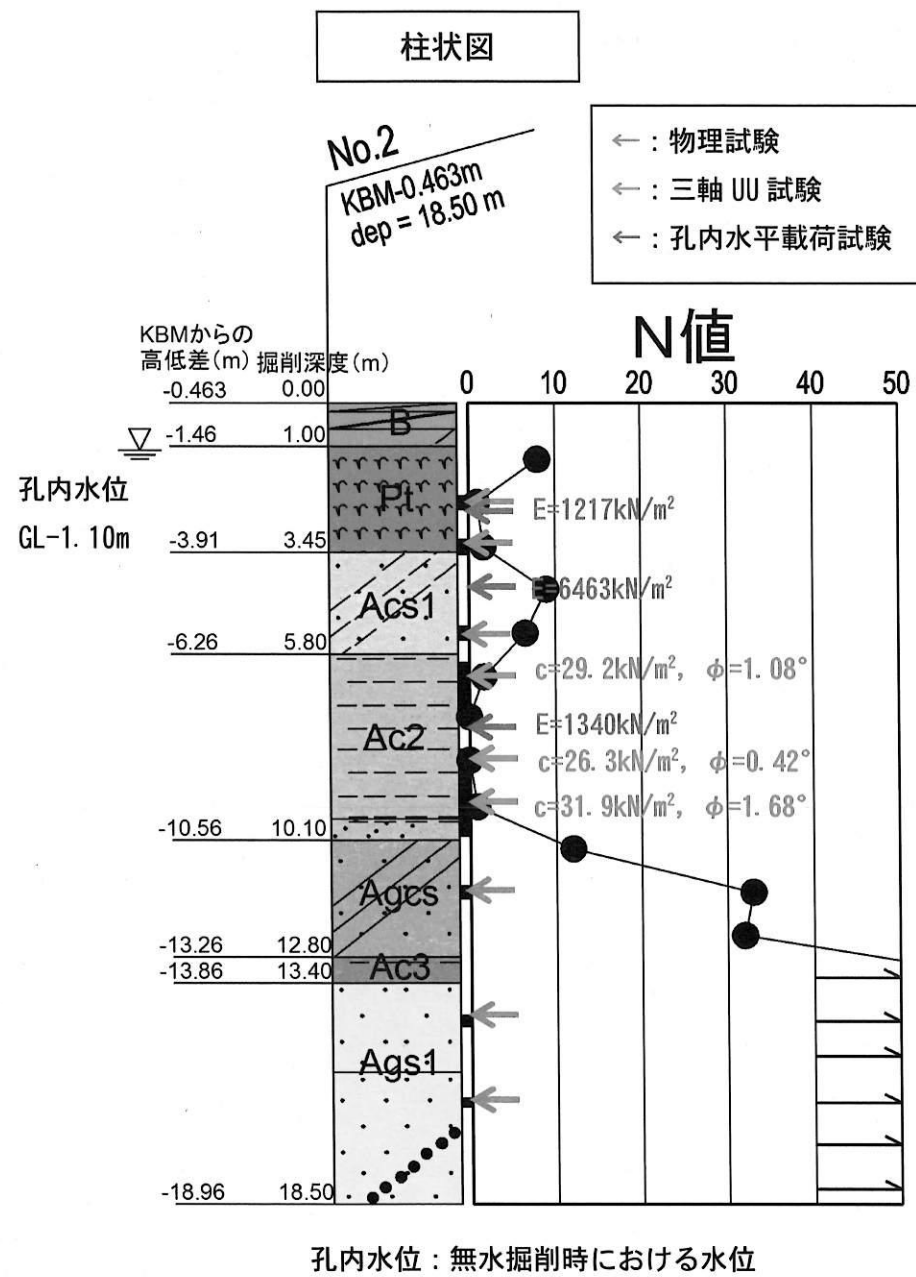


図 5.1.4 ボーリング調査結果 (No. 1)



**地層概要**

地層区分	深度 (GL-m)	土質区分	記事
B	0.00 ~ 0.20	表土	含水量中程度。シルト質砂状。植物根混入する。
	0.20 ~ 0.60	盛土	径40mm程度のコンクリート片混入する。粒径が不均一の火山灰を主体とする。全体的に砂分を含む。粒径5~10mm程度の垂円礫が混在する。含水、粘性はともに非常に低い。
	0.60 ~ 1.00	シルト混じり砂	礫は2mm程度の垂円礫を含む。砂は粒径の揃った細砂を主体とする。部分的に粒径10~20mm程度の礫が混入し、固結状を呈している。含水量、粘性ともに低い。
Pt	1.00 ~ 3.45	泥炭	全体的に腐植物を多く含む腐植土。GL-1.10m付近、厚い木根が確認される。含水量は多い。深度が深くなるにつれて砂、シルト分を含む。
Acs1	3.45 ~ 5.80	シルト質砂	含水量は多く、細砂とシルトの中間土状を示す。GL-4.55m付近からシルト分を含む。
Ac2	5.80 ~ 9.60	粘土	均質な粘土で含水量高い。粘性は強い。含水量は多い。GL-9.5m付近より細砂分が多くなる。粘性は上位に比べて弱い。
	9.60 ~ 10.10	砂質粘土	中砂が多く含まれる。中間土状となる。
Agcs	10.10 ~ 12.80	粘土質砂	粒径は全体的に不均一で、細~中砂を主体とする。含水量は多い。GL-11.5m付近から粒径5~10mm程度の垂円礫が確認される。深度が深くなるにつれて礫分が多くなる。細砂分が少なくなり、中砂の割合が多くなる。
Ac3	12.80 ~ 13.40	粘土	均質な粘土で粘性が強い。含水量は中程度である。
Ags1	13.40 ~ 15.45	シルト混じり砂・礫混じり砂	GL-14.00~14.45m間はブロック状に火山灰、垂円礫を含む。固結砂状となっており含水量も少ない。以深は径30~40mmの垂円礫を含み、礫は径2mm程度のものを主とする。砂は砂質土を主体とし、全体的に混合状態にある。
	15.45 ~ 18.50	礫混じり砂	粒径は全体的に不均一で、細~中砂を主とし、シルトを含む。粒径5~10mm程度の円~垂円礫が全体的に混在する。含水は少ない。GL-15.8m付近色調が暗灰から褐灰に変わる。GL-15.8~15.9m付近薄く粘性土を挟む。GL-16.55~16.95m中砂主体。GL-17.35、17.50m礫を狭在する。GL-17.50~18.00m中砂主体。

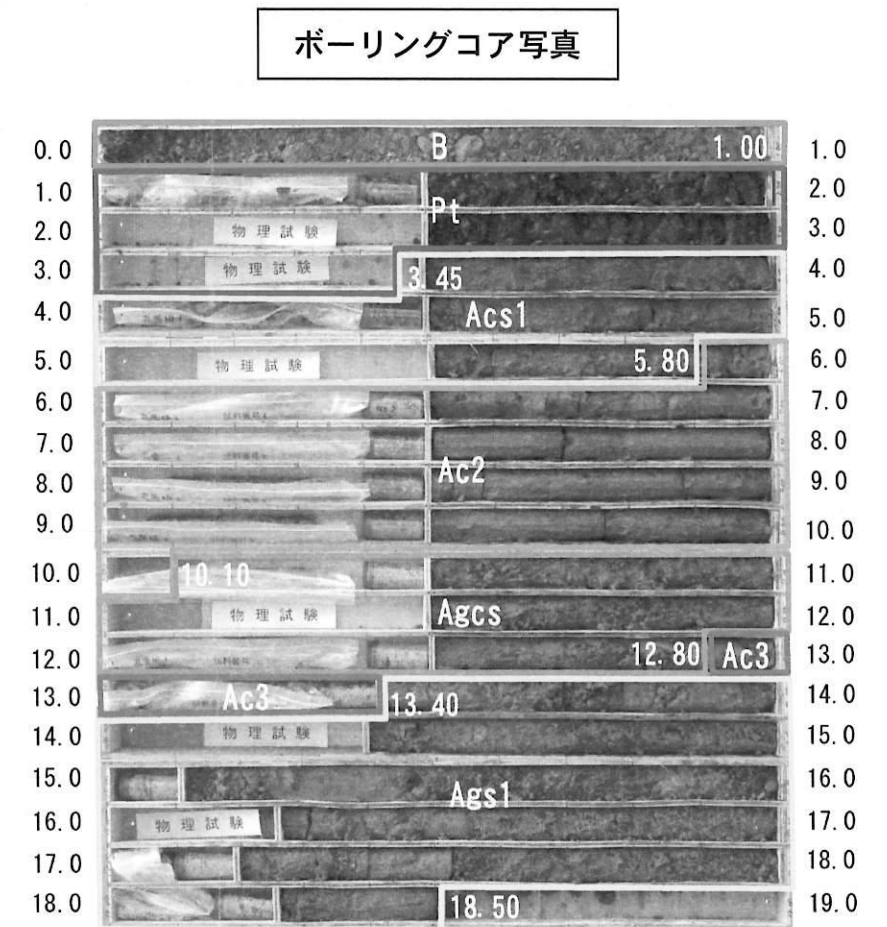


図 5.1.5 ボーリング調査結果 (No. 2)







